

# ふくしま県人会だより

第33号  
平成28年5月  
福島県人会  
北海道連合会

## 福島県人会北海道連合会長

あいさつ

福島県人会北海道連合会

会長 神野修



会員ならびにご家族の皆様には、ご健勝でお過ごしのことと拝察いたします。

記録によると大正八年に札幌福島県人会が創立し、その後各地に結成された県人会間の交流と親睦を目的として、「福島県人会

北海道連合会」の結成総会が昭和四十八年五月に函館市で開催以来、欠かすことなく開催地の県人会が主管となり、その会員皆様の特徴あるおもてなしを頂いて、連合会の目的である楽しい総会を開催してきました。

各県人会創立の背景を調べてみると、私達の先人の足跡は、未開拓の地で血と汗を流して苦難と闘い克服しながら、農林業、畜産や酪農業、漁業や水産業の開拓と振興を図り発展に尽くして、今日の北海道を築く力となりました。

又、国会議員や道議会議員や地方自治体の長として政治の分野に、或いは、教育や文学・芸術に寄与された功績は洵に大であり、そして先人の血と汗と志を継承して各地の各分野で活躍されて

いる会員と、県人会を讃えたいと思います。

高齢化の影響で県人会員の減少が大きな悩みになっていますが、福島県人が北海道や各地発展に果たしてきた実績を誇りに、勧誘活動で会員増加を図ろうではありませんか。

本年十月、四年毎に開催の「全

国ふくしま県人会サミット」が北

海道で開催されることになり、東

北大地震で被災した福島県は、原

子力発電所の放射能漏れの影響

が極めて大きく、県民の流出の人

口減を含めて復興は依然として

進んでいない状況を踏まえて、ふ

くしまの復興や風評払拭、風化防

止に果たすべき県人会の取り組

みをテーマに、併せて会員拡大の

取り組みについて意見を交流し

ますが、母県の復興と県民の笑顔

を取り戻す為にも、応援団体とし

ての県人会の存在と活動が大き

な力となるものと思います。

各地県人会員が一同に会する

総会が、美幌県人会のお世話にな

り網走で行われます。

皆様とお元気で再会することを心からお待ちします。

## 福島県知事

あいさつ

福島県知事

内堀 雅雄



福島県人会北海道連合会におかれましては、昭和四十八年の発足以来、ふるさとを同じくする方々の心よりどころとして、会員相互の交流を深めながら、着実に発展を続けられておりますことは、誠に喜ばしい限りであり、会員の皆さんのふるさとを思う御熱意に心から敬意を表します。

また、皆さんには、本県に格別のお力添えを賜り、厚く御礼申し上げます。

震災から間もなく五年を迎えようとしております。今もなお十万人近い県民の皆さんが避難生活を続け、廃炉・汚染水対策や被災者の生活再建など課題が山積しており、復興はまだ途上であります。

その一方で、昨年はいよいよ未来学園高等学校の開校を始め、環境創造センターなどの復興を支える拠点施設の整備進展や文化・スポーツでの若者の活躍など、明るい光が着実に広がりを見せております。

県民の皆さんがより一層復興を実感できるよう、昨年末に改訂した復興計画に基づく重点プロジェクトを確実に実行に移し、スピード感を持って取り組んでまいります。

中でも、避難地域の復興再生は最優先課題であります。環境回復や生活再建はもちろん、医療や公共交通などの広域的な課題への

対応やイノベーションコースト構想の具体化など、一日も早い避難地域の復興再生に向け、県民の皆さんが安全に安心して暮らせる環境づくりを進めてまいります。

また、経済や産業に活気がなければ福島復興は成り立ちません。農林水産業、商工業、観光業などの既存産業の再生はもとより、再生可能エネルギーや医療関連産業を始め、ロボット関連産業、航空宇宙関連産業など、新たな産業が福島の地で生まれ、育っていくよう取り組みを進めてまいります。

さらに、復興と併せて取り組まなければならないのが地方創生であります。昨年末に策定した地方版総合戦略の各施策を重点的に推進し、人口減少の克服と地域の活性化をしっかりと図ってまいります。

このほかにも、風評・風化対策、避難者支援、強い農林水産業の再生、活力ある商工業づくり、社会生活基盤整備など、山積する課題

の一つ一つに全力で取り組んでまいりたいと考えております。

震災・原子力災害からの復興と地方創生を二つの大きな柱として、直面する課題に果敢にチャレンジし、「生まれて良かった、住んで良かった、来て良かった」と思える福島県の実現を目指して、県民とともに進んでまいりますので、今後とも県人会の皆さんの一層のご理解とご支援をお願いいたします。

終わりに、福島県人会北海道連合会の限らない発展と、会員の皆さんの今後ますますのご健勝、ご活躍を心からお祈りいたしまして、あいさついたします。

## 会員通信

### 二十八年度総会・新年会開催

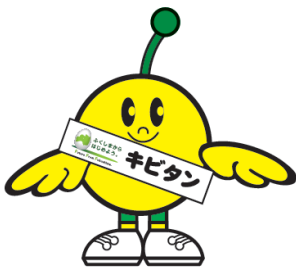
函館福島県人会

去る一月十六日(土)正午から二十八年度総会・新年会を魚喜亭(会員のお店)で開催しました。今までは夜の開催でしたが、今年からは会員の意見もあり昼間の開催としました。総会には会員十六名に北海道事務所から坪井主査が出席されました。

小山会長はあいさつで、「いよいよ三月二十六日に北海道新幹線が開業するが、これにより函館と福島の交流がいつそう深まることを期待したい。」と述べました。

また、県北海道事務所の坪井主査は、配布資料を基に県内の除染やインフラ整備など復興状況について話され、引き続きの支援を要請されました。

新年度の事業計画では、傷心惨目碑前祭など恒例行事の他、北海



道新幹線開業記念行事として「新幹線を利用しての母県訪問」を企画、詳細はこれからとなるが前向きに検討したいと提案されました。

任期満了に伴う役員改選では、小山会長をはじめ全役員が再任されました。

総会終了後、記念撮影をし新年会に入りましたが、ビンゴゲームなどで盛り上がり楽しいひとときを過ごしました。

最後は、このたび函館の歴史について長年地元新聞に連載した記事に加筆し、「函館郷土秘話」として自費出版した近江幸雄会員に、その解説も兼ね締めていただきました。

### 第三十三回福島県人会 道東地区合同観楓会

美幌福島県人会

大竹 啓

母県を愛する北海道の皆さんお変わりなくお元気ですか。昨

年十月三〜四日、紅葉のまつただ中、道東地区観楓会が弟子屈町川湯温泉きたふくろう温泉で開催され、福島県北海道事務所から鈴木次長、岡部副主査が出席され、

総勢三十九名が参加され、昼からは川湯パークゴルフ場で日頃鍛えた練習の成果を発揮し、老いた身体に鞭打って今までにない良い成績で終了。結果は、男子優勝者は、別海福島県人会大内照雄会員、女性優勝者は、浜中福島県人会吉家慶子会員、ホールインワン賞は、美幌県人会打地健一、大竹シヅ子、佐藤登の三会員にきたふくろう賞となり、帰路は徒歩で途方に疲れたようです。その後は温泉に浸かり疲れ回復？、十八時から懇親会となり、美幌県人会北畠幹事長の音頭で三十九名全員の参加、又、きたふくろう温泉

様より最高齢参加記念として、浜中福島県人会 西村トヨ会員に贈呈。その後は、待ちに待った、日頃鍛えた喉の披露。会員の中にはプロ並みの方もおり、盛大な拍手とアンコールで盛り上がり、時

間の経つのも忘れて延長となり、締めは、会員全員で北海道盆踊りなどで大いに盛り上がりました。

翌日、福島県北海道事務所鈴木次長、岡部副主査、美幌県人会近藤会長、北畠幹事長、大竹会計の五名は、平成二十八年度北海道連合会総会の打ち合わせを、網走湖荘支配人で行った後、網走道の駅で野菜そばを食べて解散しました。二日間のお付き合いご苦労様でした。

平成二十八年度福島県人会

北海道連合会総会開催地

美幌福島県人会より

美幌町福島県人会

前崎 孝子

道内にも春らしい季節が訪れようとしております今日このごろですが、福島県人会の皆さんにはお変わりなくお過ごしでしょうか。

月日の流れは早いもので、昨年の福島県人会北海道連合会総会で、苫小牧福島県人会様にお世話になってから最早一年が過ぎようとしております。

その節は大変お世話になり、とても懐かしく楽しい思い出をたくさんいただきました。ありがとうございました。

さて、今年の北海道連合会総会は、美幌福島県人会が担当です。開催地として皆様方に満足頂けるよう頑張っておりますが、例年出席させて頂きながら感ずるところですが、開催に花を添えて盛



り上げて戴くには地元はもちろ  
んですが、県人会会員のみなさん  
に一人でも多くの方々に参加し  
ていただくことが、何より一番の  
力と思います。

どうぞ万障繰り合わせの上、道  
東美幌へと足をお運びくださる  
よう、美幌福島県人会会員一同、  
心から歓迎申し上げます。

皆様方とお逢いできる日を楽  
しみにお待ちしております。  
(道東美幌周辺にも観光してい  
ただけるところも多くあります。)

## 新会員の紹介

### 美幌町福島県人会

本吉 紀登美

田中 由里子

(敬称略)

## 母県からのお知らせ

### 全国新酒鑑評会金賞受賞

#### 四年連続全国一位に

独立行政法人酒類総合研究所  
が開催している、平成二十七酒造  
年度「全国新酒鑑評会」において、  
福島県からは四十一銘柄が出品  
され、二十六銘柄が入賞、うち十  
八銘柄が金賞に選ばれ、金賞受賞  
数で全国一位となりました。

福島県が金賞受賞で日本一と  
なるのは、四年連続です。

本県酒造業者の高い技術とた  
ゆまぬ努力によって作り上げら

れた「ふくしまの酒」の品質が、  
本年も高く評価されました。  
全国に誇れるおいしい福島県  
日本酒を皆様も是非ご賞味くだ  
さい。



### 【福島県金賞受賞銘柄】

廣戸川（松崎酒造店（天栄村））、  
穩（仁井田本家（郡山市））、  
あぶくま（玄葉本店（田村市））、  
三春駒（佐藤酒造（三春町））、  
奥の松（東日本酒造協業組合（二  
本松市））、会津中将（鶴乃江酒造  
（会津若松市））、名倉山（名倉山  
酒造（会津若松市））、嘉永蔵大吟  
醸（末廣酒造嘉永蔵（会津若松  
市））、弥右衛門（大和川酒造店（喜  
多方市））、会津ほまれ（ほまれ酒

造（喜多方市））、大吟醸きたのは  
な（喜多の華酒造場（喜多方市））、  
國権（國権酒造（南会津町））、  
榮四郎（榮川酒造（磐梯町））、  
会津栄川（栄川酒造（西会津町））、  
玄宰（末廣酒造博士蔵（会津美里  
町））、萬代芳（白井酒造店（会津  
美里町））、學十郎（豊国酒造（会  
津坂下町））、一生青春（曙酒造（会  
津坂下町））

「第4回全国うつくしま県人会交  
流会（県人会サミット）」の開催に  
ついて

「うつくしま県人会交流会（県  
人会サミット）」は、全国の福島  
県人会の会員が一堂に会し、参加  
者相互の人的ネットワークの拡  
大や各地域との持続的な交流、さ  
らには各県人会の活性化を目的  
として、平成十六年から四年に一  
度開催しています。

四回目となる今年も、十月に北  
海道で開催する予定です。詳細が  
決まりましたら、皆様にお知らせ  
します。

